

願成寺

相良家は、700 年近くにもわたって人吉・球磨を治め、平和と繁栄を促し、歴史の栄枯盛衰をうまく生き抜いてきました。その遺産は、相良家の願成寺に残されています。

この寺は、相良家の初代当主である相良長頼（1177～1254 年）が 1233 年に建立した寺です。相良長頼は、願成寺を人吉城の北東側に建造させました。この時代、不運から城を守るため、悪魔がやってくると考えられていた方角である北東（鬼門）側に寺院を建造するのが一般的でした。

この地域は相良家が 37 代にわたって治めており、そのほとんどが、願成寺本殿裏の墓地に埋葬されています。時代に合わせて変化していった様々な石造りの仏舎利塔や仏塔が並ぶ墓地を過ぎて小道を進むと、緑豊かな広い敷地が広がっています。

境内にある清水観音堂は、江戸時代（1603-1867 年）に人気を博した相良三十三観音めぐりの 1 番目の寺です。三十三観音めぐりでは、観音様を祀った 35 箇所を巡ります。清水観音堂に納められている観音様は 17 世紀初期にまで遡るもので、年に 2 度の観音めぐりの際に展示されます。観音像は、蓮の花の上に立ち、凝った装飾の頭飾りを付けています。

願成寺には、平安時代（794-1185 年）の木造不動明王、鎌倉時代（1185-1333 年）初

頭の白水阿彌陀堂、14 世紀の両界曼荼羅など、他にも複数の重要な作品が納められています。

これらは、通常、特別な行事の際にのみ展示されます。